

「持続的な畜産物生産の在り方検討会の中間とりまとめ」について

「持続的な畜産物生産の在り方検討会の中間とりまとめ」について、乳業者の立場から、4点、書面にてコメントさせていただきます。

(1) 既存の政策との整合性の確保

第1に、既存の政策との整合性の確保についてです。

「はじめに」にも記載されているように、国としては、国内外の堅調な畜産物需要に応え、その生産・供給の拡大を図るため、「総合的な TPP 等政策大綱」等の様々な政策やプログラム、基本計画などを取りまとめ、畜産振興のための各般の取り組みを進めていると承知しています。

本畜産部会においても、約1年間にわたる精力的な議論を経て、昨年3月末に「酪肉近代化基本方針」が策定され、その目標や方針に向けて、生産現場が動き始めたばかりであると認識しています。乳業者としても、生乳生産基盤の強化に向けて、積極的に支援しているところです。

このため、「持続的な畜産物生産の在り方」について酪農家などの生産者に対して周知するに当たっては、長年の官民を挙げた生産基盤強化のための各般の対策が実を結びはじめ、生産が漸く回復基調となってきたことに水を差すことがないように、これらの方向性について整合性が確保され、一体的に推進できるように配慮するとともに、生産者がミルクサプライチェーンの一員として主体性を持って取り組めるよう政策的な支援や指導をお願いします。

(2) 生産者の理解醸成

第2に、生産者の理解醸成についてです。

持続的な畜産物の生産を推進するに当たっては、何にもまして、その当事者である生産者の理解と協力が不可欠です。そのためには、生産者と密に意見交換をし、その必要性について、行政との間で共通認識を醸成していく必要があると考えます。

しかしながら、中間とりまとめにも記載されているように、環境負荷軽減等に向けた生産者の努力が見える化する取り組みだけでも、「有機畜産物 JAS」、「放牧畜産物基準認証」、「エコフィールド利用畜産物認証」、「畜産 GAP 認証」、「農場 HACCP」があるようですが、例えば有機畜産物 JAS による認証が行われているのは、18 事業者、19 事例と点的な存在に過ぎません。このため、例えば、私ども乳業者が生産者の取り組みを支援するとしても、点的な取組では商品化はなかなか難しい面があります。

したがって、見える化の取り組みであれば、無駄な重複作業が発生しないように体系的に整理することや、取組のハードルを低くすることなど、生産者が取り組みやすい仕組みを検討いただき、商品化により新たな需要を生み出すことができれば、環境負荷軽減の取組が進みやすくなるのではないかと考えられます。

また、生産者が意欲をもって飼料生産基盤に立脚した資源循環型の持続的な畜産物の生産に取組むためには、とりわけ都府県においては、既存の政策を見直し、耕作放棄地や水田を一層有効に活用できるようにするなど、政策的な誘導を図ることも必要ではないかと考えます。

（３）温室効果ガス排出削減の取組

第３に、温室効果ガス排出削減の取組についてです。

飼料給与に関して今後行うべき取組みとして、「牛の脂肪酸カルシウムなど温室効果ガス削減飼料の利用拡大」との記載があります。

当協会は、平成 29 年度及び 30 年度の畜産部会において、学校給食用牛乳の風味変化問題への対応について意見を申し上げました。脂肪酸カルシウムなどの温室効果ガス削減効果のある飼料の利用拡大を推進する前に、まずは消費に大きく影響する生乳や牛乳の風味に変化は生じないか、牛の自然な生理現象を抑制することにより牛に何らかのネガティブな影響は生じないかなど、科学的な観点から慎重に確認・検証することが必要ではないかと考えます。その確認・検証を経た上で、利用拡大を推進していただければと考えます。

（４）消費者の理解醸成

最後に、消費者の理解醸成についてです。

中間とりまとめにも記載されていますが、生産者は、生産性の向上と環境への配慮を両立させなければなりません。他方、消費者は、畜産物を生産するに当たり、環境への配慮やアニマルウェルフェアなどの取り組みは当然のことと考え、生産者に対して過大な期待を抱く傾向があるものと思われる。

例えば、多くの消費者は、牛は広い草原に放牧され、草を食べ、生乳を生産しているというイメージを持っていると思われますし、学校給食用牛乳などについては、地産地消されるのが当然であると考え、やや理想的なイメージを抱きがちであると思われます。

しかしながら、土地条件の制約がある都府県において、消費者の期待に沿った生産を行うためには、相当のコストがかかります。ましてや、有機

酪農などを行うとなれば、移行期間には大幅な生産と所得の減少に対処しなければならぬなどの課題があります。

したがって、消費者に対しては、わが国の生乳生産基盤及びミルクサプライチェーンの特徴を周知していただくとともに、持続的な畜産物の生産・供給のためには、合理的にコストを反映していくことも必要になるということについて、理解を醸成していただきますようお願いいたします。